

清盛臨終（大野恵造）

入道 清盛 病 頗る 篤し

秘法を 修 せしむるも 更に 驗 無し

熱氣 濛々 五体 燃ゆ

座は 為に 猛火に 覆われたるに 似る

入道清盛病頗篤 令修秘法更無驗  
熱氣濛々五体燃 座為似被覆猛火

解説 清盛は何らかの病気で高熱を出し、死に至った事を述べた詩。

語釈 ※頗る||非常に。たいそうに。 ※篤し||病気が重い。 ※秘法||秘密の方法。 ※修||おさめる。 ※驗||ある事を行ったことによるききめ。 効果。 ※濛々||熱気が立ちこめるさま。 ※五体||身体の五つの部分。 頭・首・胸・手・足。 ※座||多くの人が集まっている場所。

通釈 清盛の病は非常に重く、色々な方法で手当を行ったが、効き目はなかった。清盛の体からは熱気が立ちこめ、五体が燃えるように熱い。それは清盛がいるところは猛火に包まれているかのようだ。